

「地域医療を考える」座談会

メディカルヒルズ郡山

新たなまちづくりへ

一般財団法人脳神経疾患研究所(附属総合南東北病院)などで行う共同事業者は昨年1月、旧農業試験場跡地(郡山市富田町)を取得し、令和9年度の開設を目指す新病院建替え移転プロジェクトをスタートさせた。

郡山市が掲げる「メディカルヒルズ郡山基本構想2.0」では、この土地を含む市街化調整区域で、医療機器関連産業分野を中心に産業集積拠点の形成を目指しており、総合南東北病院の新築移転などで具現化され、新たなまちづくりが進められる。昨年10月には、地域全体のまちづくり推進を目的とした「メディカルヒルズ郡山まちづくり協議会」も発足した。

まちづくりにおける新病院や施設などに期待される役割などに関係者が意見を交わした。(文中敬称略)

地域住民が
安心できる環境整備
と情報発信



福井 邦顕氏

行政と民間が力を
合わせた
インフラ整備を



渋谷 重二氏

医療と
まちづくりの
相乗効果に期待



河内 勉氏

司会



三吉 梨香さん

出席者
(順不同)

脳神経疾患研究所 理事長 渡邊 一夫氏
総合南東北病院 院長 寺西 寧氏
江東微生物研究所 取締役 橋本 充氏
エヌジェイアイ 代表取締役 橋本 弘幸氏

【メディカルヒルズ郡山まちづくり協議会】

会長 福井 邦顕氏(ゼノアックホールディングス代表取締役社長)
副会長 渋谷 重二氏(郡山地区商工会広域協議会 会長)
副会長 河内 勉氏(富田町第3区 区長)

【司会】ふくしまFMアナウンサー 三吉 梨香さん

医療が地域経済を 支える時代へ

【司会】総合南東北病院の新病院建設については、地域の皆さんや、郡山医師会をはじめとする県内医師会、商工関係団体、各町内会などから強い要望があったそうですね。

渡邊 新型コロナウイルスという新興感染症のまん延に際して、行政などからの要請もあり、南東北病院グループはいち早く、今までに経験したことのない大きな課題に立ち向かってきました。

現在の病院構造では対応が困難なさまざまな課題に直面し、われわれは一つ一つの課題を乗り越えながら、地域医療を確保していく使命が今までも増していると感じてきました。その結果、新病院の建設を決めました。

【司会】新病院の基本コンセプトをお聞かせください。

渡邊 まずは先ほど申し上げた経験からも、感染症対策に対応した病院を目指します。次に、災害や防災医療の充実です。当院は地域災害拠点病院、原子力災害医療協力機関に指定されています。災害時に被災者の避難所として活用できるように検討することにも、広域な活動として、DMAT(災害派遣医療チーム)や国境なき医師団へのスタッフ派遣なども取り組んでいます。

【司会】新病院建設のほかにどのような計画がありますか。

橋本(充) われわれ江東微生物研究所では、病院のバックアップ機能の拡充を計画しています。検査におけるいち早いデータ報告、新興感染症診断を補助する検査のスピードアップなどに対応したいです。また、将来的にはハビリテーションに関する専門学校のサテライト校の設置を考慮しています。

【司会】地域の皆さんの期待は大きいそうですね。

寺西 新築移転は病院機能を高めるために必須のことで、今の状態をお聞かせください。地域への影響を改めて認識しました。移転先の地域の皆さんのつながりも、移転先での活用を考えているところです。

渡邊 病院移転後、従来の既存施設は、「ゆりかごから墓場まで」をテーマに、総合福祉センターなどの福祉施設や医療提供施設として総合的に活用していきます。

【司会】まちづくりにおける新病院の役割や、新病院に対しての意見、要望についてお聞かせください。

福井 近隣の皆さんが安心感を持つような病院になることを目指しています。緊急患者の受け入れや救急車の頻りに来たり、ドクターヘリの発着も増えます。そういう意味で、住民の理解を得るための情報発信も重要です。患者さんにとって利用しやすい病院であることが、その積み重ねが病院への信頼につながっていくと思います。

【司会】新病院建設予定地周辺にJR郡山駅と国道288号が直結する交通面でも重要な地域になります。

福井 メディカルヒルズに新病院をはじめ医療機器開発支援センターなど医療関連施設が集まることで、相互の有機的な連携が可能となり、相互の新しい技術開発や、医療機器メーカーやスタートアップ企業、研究施設といった医療関連事業者の集積地域になります。一方で、人や車の流れが集中するため、地域住民、特に登下校時の安全面に配慮が必要です。

【司会】まちづくりにおける新病院の役割や、新病院に対しての意見、要望についてお聞かせください。

河内 富田地区は近隣の交通インフラの整備を進めることが求められます。河内 富田地区は人口が増加しており、富田東小は約1000人の児童がいます。子どもは通学環境を守らなくてはなりません。

橋本(弘) さらに視野を広げると、福島空港の活用で全国や海外へのエリア拡大も考えられます。また、人口減少が進む日本でも、高齢者に対する医療サービスを提供し、健康をいかに維持するか、という予防の視点も大切です。私たちは「健康」という考え方で、健康維持を目指す取り組みを展開しています。病院と、産業やサービス、そして人と人が結びつくことが地域の発展につながります。

【司会】まちづくりには地域の支援や協力のほか、行政の支援も重要と言えます。

福井 行政には住環境をはじめ、道路や横断歩道の整備について支援をお願いしています。さらに最大限、住民の安全を考慮した施策を望みます。そして、メディカルヒルズ郡山基本構想をぜひ実現していただきたい。総合南東北病院のBNCT(ホウ素中性子捕獲療法)は世界のトップレベルにあります。郡山にそのような病院があることは大きな財産です。

【司会】これまでのご意見を踏まえ、改めてご意見を伺います。

河内 郡山広域圏17市町村では、過疎化が進み病院が維持できない現状があります。17市町村約65万人の住民が、ここに助けを求め、この地域で暮らしたい。医療者が安心して働ける環境を整備していただきたい。医師とまちづくりの結びつきによる地域活性化に期待しています。高度な医療技術で海外の患者さんを受け入れ、観光につなげられる可能性もあります。

橋本(弘) 新病院には食料の備蓄や防災センターとしての役割も期待しています。高齢者の移動を助けるタウンモビリティなど、新たなアイデアも寄せられるのではないのでしょうか。一方で、2025年までは高齢者人口は増えますが、その後は減り続けます。お話を伺った中で思ったことの一つは、医療は産業であるという考えです。当院の患者さんの10%は県外から来ており、その数は今後も増え、人口減少の将来を見据え、広域に展開する必要があります。郡山に向けていかなければなりません。広い視野での医療展開、ひいてはそれが郡山全体の活性化につながっていく。医療が地域経済を支えていくと私は考えています。

【司会】今後とも行政も含め、皆さまのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

憩いの場を整備し
地域に愛される
病院・まちづくりへ



渡邊 一夫氏

感染症や災害に
強い医療で
地域経済に貢献



寺西 寧氏

近隣クリニックとの
病診連携も可能に



橋本 充氏

新たな概念で
高齢社会を見据えた
サービスへ



橋本 弘幸氏

医療体制の充実で 安心の暮らしを

【司会】まちづくりにおける新病院の役割や、新病院に対しての意見、要望についてお聞かせください。

福井 近隣の皆さんが安心感を持つような病院になることを目指しています。緊急患者の受け入れや救急車の頻りに来たり、ドクターヘリの発着も増えます。そういう意味で、住民の理解を得るための情報発信も重要です。患者さんにとって利用しやすい病院であることが、その積み重ねが病院への信頼につながっていくと思います。

【司会】新病院建設予定地周辺にJR郡山駅と国道288号が直結する交通面でも重要な地域になります。

福井 メディカルヒルズに新病院をはじめ医療機器開発支援センターなど医療関連施設が集まることで、相互の有機的な連携が可能となり、相互の新しい技術開発や、医療機器メーカーやスタートアップ企業、研究施設といった医療関連事業者の集積地域になります。一方で、人や車の流れが集中するため、地域住民、特に登下校時の安全面に配慮が必要です。

【司会】まちづくりにおける新病院の役割や、新病院に対しての意見、要望についてお聞かせください。

河内 富田地区は近隣の交通インフラの整備を進めることが求められます。河内 富田地区は人口が増加しており、富田東小は約1000人の児童がいます。子どもは通学環境を守らなくてはなりません。

橋本(弘) さらに視野を広げると、福島空港の活用で全国や海外へのエリア拡大も考えられます。また、人口減少が進む日本でも、高齢者に対する医療サービスを提供し、健康をいかに維持するか、という予防の視点も大切です。私たちは「健康」という考え方で、健康維持を目指す取り組みを展開しています。病院と、産業やサービス、そして人と人が結びつくことが地域の発展につながります。

【司会】まちづくりには地域の支援や協力のほか、行政の支援も重要と言えます。

福井 行政には住環境をはじめ、道路や横断歩道の整備について支援をお願いしています。さらに最大限、住民の安全を考慮した施策を望みます。そして、メディカルヒルズ郡山基本構想をぜひ実現していただきたい。総合南東北病院のBNCT(ホウ素中性子捕獲療法)は世界のトップレベルにあります。郡山にそのような病院があることは大きな財産です。

【司会】これまでのご意見を踏まえ、改めてご意見を伺います。

河内 郡山広域圏17市町村では、過疎化が進み病院が維持できない現状があります。17市町村約65万人の住民が、ここに助けを求め、この地域で暮らしたい。医療者が安心して働ける環境を整備していただきたい。医師とまちづくりの結びつきによる地域活性化に期待しています。高度な医療技術で海外の患者さんを受け入れ、観光につなげられる可能性もあります。

橋本(弘) 新病院には食料の備蓄や防災センターとしての役割も期待しています。高齢者の移動を助けるタウンモビリティなど、新たなアイデアも寄せられるのではないのでしょうか。一方で、2025年までは高齢者人口は増えますが、その後は減り続けます。お話を伺った中で思ったことの一つは、医療は産業であるという考えです。当院の患者さんの10%は県外から来ており、その数は今後も増え、人口減少の将来を見据え、広域に展開する必要があります。郡山に向けていかなければなりません。広い視野での医療展開、ひいてはそれが郡山全体の活性化につながっていく。医療が地域経済を支えていくと私は考えています。

【司会】今後とも行政も含め、皆さまのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。